

2019 度 自己点検・自己評価公表シート

エクレスすみれ保育園

1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる」ことを教育・保育方針とする。

そのために次の6項目を保育目標とする。

①楽しい教育

②義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

③やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。

④「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の“4つのつばさ”を保護者と共に育てる。

⑤個を大切にしながら、自立の発達を促す教育と保育を進める。

⑥遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む。

2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2 歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を計り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

3. 学年別目標・計画

0 歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で信頼関係の基礎を育てる。
1 歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2 歳児	保育士と安定した関わりの中で、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を自分でしようとする意欲を育て、身に付けられるようにする。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 保育目標の理解と周知 保育理念、保育方針、保育目標について、保育士間の共通理解ができているか	2018 年度から継続している、学園の理念と学園目標は、週に 1 回唱和をし、周知することができている。
2. 保育内容 保育所保育指針の理解、指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができているか	指導計画は、保育指針を踏まえ、年齢に応じた園児の理解と発達状況に対応して作成ができている。書式のフォームを変え、実際に行った保育を踏まえ、次の日の保育を考えられるように改善した。また、新たな取り組みとして「保育 WEB」という考え方をクラス会議で行い、日々の保育につながる取り組みを行った。
3. 保育環境 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができているか	今年度より、クラスに置く前に、事務所に教具を置き、さらに主任との使い方に関する手技を学ぶ機会を作る。やりきれていない部分もあるが、昨年度に比べ、使い方がわかるものが部屋にあるので、個人の差はあるものの、皆が同じ状態で教具への見守り・提示を行うことができた。
4. 行 事 ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数はてきせつか PDCA 体制をとっているか	0 ～ 2 歳児という中での行事の回数としては、適切だった。昨年度に比べ、「ねらい」について意識が持てるようになってきたが、もう少し共有できたと感じる。
5. 食 育 保育の一部となるような活動を行っているか	無理のない形で、食育体験を年齢ごとに行うことができた。保育士と調理室とが、それぞれのクラスごとでコミュニケーションをとることができた。
6. 職員の役割・資質向上 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の職員との連携はできているか	2018 年度に振り返った際、保育経験年数別の会議を、今年度行った。小集団ということや同じ経験年数ということもあり、意見も出やすく、また、こちら側が伝えたい視点で話すことができ、良い場となることが出来た。次年度は、ディスカッションする会議でも同じように小集団に分け、行っていきたい。
7. 特別支援教育 当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができているか	当該園児についての情報の共有については、共通理解のもと支援体制を整えることができた。医療・福祉との連携は、個々での連絡はできていた。2018 年度に比べ、外部研修に参加することができた。
8. 保健・安全指導 避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができているか	避難訓練は計画に基づいて実施することができた。 2018 年度同様、心肺蘇生の研修を実施することが出来た。もう 1 年同じ内容の避難訓練を行い、その後新たなパターンで訓練の計画を練り直していきたい

評価項目	取り組み状況
9. 保護者との連携・情報 保護者と連携して、園児の情報を生かした保育を行っているか 園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か 保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか 保護者からの要望や意見に適切に対応できているか 守秘義務を厳守しているか	個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り組むことができた。 園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして情報を職員間の共有を図ることができた。また、改善が必要なことに際しても、迅速に行うことができた。 保護者への園の情報は年間行事予定表・園だより・メール・ブログ等で発信しているほか、連絡帳や降園時に直接伝えることができた。また、保護者は保育参加を通して、園の保育の理解促進を行うことができた。
10. 子育て支援 子育て支援の取り組み、子育ての相談としての機関の実施ができているか	学園のリソースを活用したイベントや、LAVA とのコラボイベントや、わらべうた体験など、様々な取り組みを行うことができた。 戸外では積極的に地域の方へあいさつをすることで、保育士へ子どものことや一時保育のことなどの相談を受けるようになった。
11. 組織としての運営管理 園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができているか 経験に応じた保育士の連携が取れているか	朝礼で、保育士が共有すべく大人の在り方を唱和することや、会議の中で組織としての役割についての共有をすることができた。パソコンを活用し、それぞれの役割に向けての情報発信を行うことができた。園の年数が経ち、「暗黙知」のことが増えてきたように感じるので、細かなことも「形式知」にし、可視化することを次年度実施していく。
12. 特徴的な教育 系列園との連携はできているか 部門を超えての関わりを持っているか	今年度は、職員がエクレス幼稚園へ行き、学びを深めることができた。次年度は、エクレス保育園、さらには専修部門も視野に入れ、関わりを深めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 保育目標の理解と周知	「保育理念」を職員へ浸透し、実際の保育とのつながりを考えていく
2. 保育内容	保育 WEB について継続的に進めていく
3. 行事	「ねらい」について、職員で共有した上、進めていくようにする
4. 職員の役割・資質向上	経験年数関係なく、意見が言える場づくりを作っていく
5. 組織としての運営管理	様々なものを「形式知」にし、可視化していく

2020 年 3 月 9 日